

児童ポルノ等被害が深刻化する中での青少年の健全育成について

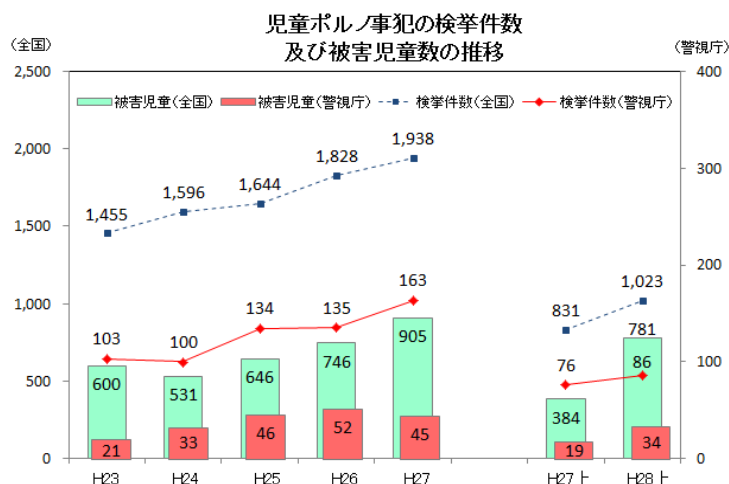
現状

スマートフォンの急速な普及やインターネット利用の低年齢化に伴い、

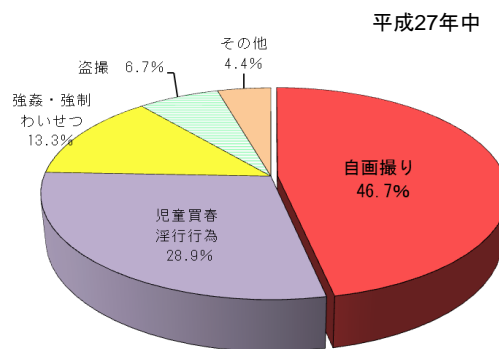
- これらの利用に起因するトラブルについての青少年からの相談が増加傾向
- うち、児童ポルノ等の性的画像等に関する相談は急増
- 中でも、脅されたり、だまされりするなどして、青少年が自分の裸体等をスマートフォン等で撮影させられた上、メール等で送られる被害や、このような被害に繋がりにくい働きかけを受け、悩み困惑する青少年からの相談が、近年の憂慮すべき特徴

(参考) 児童ポルノ事犯の現状

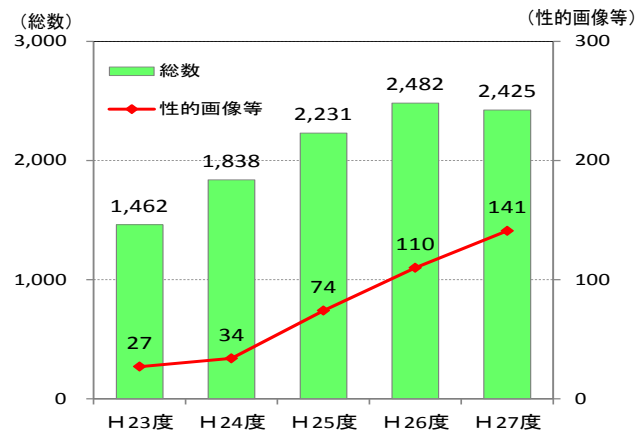
- 児童ポルノ事犯の検挙件数・人員ともに過去最多であり、年々、増加傾向
- 児童ポルノ事犯の被害児童数も増加傾向であり、被害全体の4割前後が「自画撮り被害」(※)
※「自画撮り被害」・・・だまされたり、脅されたりして青少年に自分の裸体等を撮影させた上、メール等で送らせる形態の被害



児童ポルノ被害の態様別割合(警視庁)



青少年ネットトラブル相談件数(「こたエールより」)



[事例1]

女子中学生Aは、チャットで知り合った男性Bと無料通話アプリでやり取りをし、Bから頼まれて顔写真を送った。その後、要求が段々とエスカレートし、「服を脱いだ写真を送らないと顔写真をネットに載せる」と繰り返し要求され、裸の写真を送ってしまった。

[事例2]

女子高校生Cは、ゲームアプリで知り合ったD(女性になりました男性)と容姿の相談をするうちに信用し、要求されるがまま、顔や胸が露わな写真を送った。Dから男性であると知らされた後、連絡が取れなくなった。

青少年の健全育成上の問題

被害に遭った青少年は、

- 不登校や将来の夢を諦めざるを得ない状況に追い込まれることもある
- 一度インターネット上に流出した画像等は回収が困難で、将来にわたって不安を抱き続けることになる



健全育成上深刻で、喫緊の社会問題
早急な環境整備が必要